



思いやりの心を持ち、自ら学び考える、心身ともに健康な子どもの育成

<目指す学校像>

- 児童にとって、学校生活が楽しく、居場所(活躍の場)のある学校
- 児童にとって、知・徳・体をバランスよく身に付けることができる学校
- 保護者・地域にとって、安心・安全で信頼できる、開かれた学校
- 教職員にとって、学び続けることができ、チーム学校の一員として活躍できる学校

<職場環境>

- 困ったことがあれば、抱え込まずに気軽に相談し合える職場環境

「目指す児童像」

- **やさしく 思いやりの心をもった児童**
 - ・ 思いやりがあり、友達と仲良く認め合える児童
 - ・ 笑顔であいさつができる児童
 - ・ 折り合いをつけることのできる児童
- **かしこく 自ら学び考える児童**
 - ・ 自分の思いや考えを持ち、ともに学び合う児童
 - ・ 自ら考え、調べ、答えを導き出そうとする児童
 - ・ 課題を見つけ、仲間とともに解決しようとする児童
- **たくましく 心身とも健康な児童**
 - ・ 元気よく遊び、喜んで運動に挑戦する児童
 - ・ 健康と安全を考えて行動する児童
 - ・ 強い心で頑張り抜く児童

<目指す教職員像>

- 一人一人の児童を温かく見つめ、明るくやさしく接し、信頼される教職員
 - ・ 笑顔で児童に接し、元気にあいさつする教職員
 - ・ 毎日全員に声かけをし、児童をほめる教職員
 - ・ 常に危機意識をもち、児童を守る教職員
- 教育への情熱をもち、自ら研究・修養に努め、資質と力量を高める教職員
 - ・ 児童に自ら考えさせる(アクティブ・ラーニング)授業を展開する教師
 - ・ わかる授業づくりの5つのポイントを大切に、計画的に指導する教師
 - ・ 積極的に学校全体の研究(主題研究)に関わる教師
- チーム学校の一員として、個を生かして活動する、心身共に健康な教職員
 - ・ 学級・学年・学校の連携を大切にしている教職員
 - ・ 個性を生かし、新しい提案をすることができる教職員

本年度の目標と目標達成のための取組

1 居心地のよい学校づくり

- 一人ひとりの子どもの違いを尊重する
 - ・ 子どもの思いに耳を傾ける
- 子どもが安心できる居場所にする
 - ・ いじめを生まない人間関係づくり
 - ・ 自分の考えを話せる環境づくり
 - ・ SSW、SC との連携
 - ・ 地域の人材との連携
- 道徳教育の推進
 - ・ 自己の生き方についての考えを深める
 - ・ 自立心や自律性、生命を尊重する心や他者を思いやる心の育成と考え議論する道徳科の実践
- 業務改善
 - ・ 高学年の専科指導等の活用
 - ・ SSS の活用
 - ・ 定時退校日の厳守と時間外勤務の削減
 - ・ 会議の削減と時間の確保

2 確かな学力の向上を図る

【個別最適な学びと協働的な学びの実現】

- GIGA 端末等の ICT を活用した協働的な学びを実現し、多様な他者とともに問題発見・解決に挑む資質・能力を育成する。
- ドリルアプリを活用し、児童の理解度に応じた指導の個別化を図るとともに、学習内容の確実な定着を図る。
- ICT を「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に生かす。
- 学習規律(ひびきの小スタンダード)の徹底
- 「わかる授業」づくり5つのポイントの徹底
- 学力テスト等を基にしたPDCAの確立
- 英語教育リーディングスクールの取組
 - ・ 英語教育における GIGA 端末の効果的な活用等

3 健やかな体を育む

- 児童が個々の課題に応じ、楽しく興味をもって運動できるよう GIGA 端末を効果的に活用する等、指導方法の工夫改善に努める。

5 確かな人権感覚を育む人権教育

- 「新版のいち」、「明日への伝言板」等による人権教育の推進
- 教職員の確かな人権感覚

4 一人一人の教育的ニーズに応える特別支援教育の推進

- 子どもの特性等について共通理解を深め、教育的ニーズに応じた適切な指導・支援を行う。
- 交流学級を中心とした通常学級との交流
- ケース会議の充実

6 SDGs の視点を踏まえた教育の推進 (持続可能な社会を構築する態度を育てる教育)

- 目標4「質の高い教育をみんなに」
英語教育リーディングスクールの取組等(環境教育、ICT 推進、国際理解教育等)

7 危機管理について

- 教職員の危機管理意識の向上 危機管理の「さしすせそ」
 - ・ 「報・連・相・確」時系列で記録/保護者には一つ上の手厚い対応
 - ・ 事実の確認(当事者、周りの児童)、当日中に関係保護者等に連絡
 - ・ 個人情報管理、飲酒運転・体罰・不適切な言動等不祥事の防止

8 指導力向上に向けた取組

- ・ OJT システムの確立(ひびきの Cafe による若年教員研修)
- ・ 授業公開、授業づくり等の研修の充実

10 教職員のウェルビーイングについて

- ・ 教職員が管理職等に、気軽に相談できる環境を整える。